

CONTENTS

はじめに	4
第 1 章 最低限必要な文法事項.....	5
1.1 品詞.....	5
名詞.....	5
動詞.....	5
形容詞.....	5
副詞.....	5
前置詞.....	6
冠詞.....	6
1.2 動詞.....	6
態.....	6
動詞の種類.....	7
時制.....	8
第 2 章 英文作成のテクニック.....	9
2.1 難しく考えすぎない.....	9
2.2 日本語と英語の違い.....	10
2.2.1. 語順の違い.....	10
2.2.2. 主語の有無.....	10
2.3 構文理解.....	10
2.4 動詞を中心に文を組み立てる.....	11
2.4.1 文を組み立てる.....	11
2.5 受動態の主語に注意.....	14

2.6	語句の相性（コロケーション）	16
2.7	英訳は英借から始めましょう	17
2.8	よい例文を蓄積しましょう	18
2.9	添削課題	19
	[補足] Google 検索を活用しましょう	20
1.	フレーズ検索	20
2.	ワイルドカード検索	21
3.	ドメイン制約検索（サイトを限定した検索）	22
第 3 章	読解の基本テクニック	23
3.1	文の構成を理解する	23
3.2	パラグラフの構成を理解する	24
3.3	ドキュメントの構成を理解する	25
第 4 章	基本動詞の確認	26
	administer 「A を B に投与する」	26
	obtain 「A から B を入手する」	26
	explain 「A に B[物・事]を説明する」	26
	ask 「A に～することを依頼する」	26
	discuss 「A と B について協議する」	27
	submit 「A に B を提出する」	27
	consider 「A を～であると判断する」	27
	request 「A に～することを依頼する，要請する」	27
	provide 「A に B を提供する，与える」	27
	perform 「A に B（検査）を実施する」	27
	complain 「A（症状）を訴える」	27
	recover 「A から回復する」	27
	worsen 「悪化する」	27
	withdraw 「撤回する」	28

check, ask, inquire 「A に～であるかどうか確認した」	28
advise 「～であるとの連絡を A から受ける」	28
agree 「A (物・事) に同意する」	28
第 5 章 演習	29
5.1 短文から長文への展開練習 [自己学習]	29
5.2 読解の練習	38
5.3 添削課題	40
さいごに	44
5 文型	44
演習解答例	47
5.1 短文から長文への展開練習 [自己学習]	47
5.2 読解の練習	73

はじめに

英語が苦手だけれど、業務で対応できるようになりたい。英語をよく使う業務を任されたので、もっと効率的に業務を遂行したい。

そんな皆様にお役立ていただけるよう、英文作成・英文読解の基礎を取り上げました。

本テキストは5部で構成しています。第1章では最低限必要な文法項目の説明、第2章では英文作成時のテクニックを紹介、第3章では読解のテクニックを紹介、第4章では治験英語の基本動詞を紹介します。第5章は第1章から第4章で学んでいた内容を基に取り組んでいただく演習課題となっています。

本テキストは添削指導に加え、自己学習も多く取り入れています。語学習得には近道はありません。コツコツと地道な努力を積み重ねれば必ず成果は表れますので、本テキストを通して治験英語の基礎を学び、英語学習を習慣づけ、英語業務への対応力を向上させましょう。

添削指導の対象となる課題は、2.9 添削課題（提出回数：1回）と5.3 添削課題（提出回数：2回）です。作成した答案を提出いただきます。提出された答案は添削して返却いたします。提出方法は添付した別紙をご覧ください。また、課題の提出方法や本テキストに関する疑問点などございましたら、以下の連絡先までお問い合わせください。

連絡先：

サン・フレア アカデミー
教務課

E-mail: academy@sunflare.co.jp

TEL : 03-6675-3965

第 2 章 英文作成のテクニック

2.1 難しく考えすぎない

どんなに複雑な文章でも、基本は単純な事項の積み重ねです。英語にしたい日本語が、複雑であったり、長文であったりしても、文の主旨（言いたいこと）を見極めることが重要です。

例：すべての治験スタッフが治験開始前にトレーニングを適切に終了した。

主旨：スタッフがトレーニングを受けた。

「主旨」にそれ以外の情報（周辺情報）をひとつひとつ追加していきます。

※ 以下は英文作成プロセスのイメージです。※

スタッフがトレーニングを受けた。

→ 治験スタッフがトレーニングを受けた。

→ すべての治験スタッフがトレーニングを受けた。

→ すべての治験スタッフが適切にトレーニングを受けた。

→ 治験を開始する前に、すべての治験スタッフが適切にトレーニングを受けた。

2.2 日本語と英語の違い

2.2.1. 語順の違い

日本語は「～述語。」（文末に述語を置く）が基本です。述語が文末に来さえすれば、それ以外はある程度自由に語順を変えられます。

英語は「主語+述語～」(文が主語と述語から始まる)が基本です。主語から述語の順番に書き始めます。

次の5つの要素【「患者」、「腹痛」、「訴える」、「A 病院」、「来院した」】を含めて文章を作成する際の日本語と英語の違いを見てみましょう。

日本語は、「～来院した」を文末に置いた場合、それ以外（「患者」、「腹痛」、「訴える」、「A 病院」）の語順はある程度自由に入れ替えられます。

患者が腹痛を訴え、A 病院に来院した。

腹痛を患者が訴え、A 病院に来院した。

A 病院に、患者が腹痛を訴え来院した。

A 病院に、腹痛を患者が訴え来院した。

英語は、「the patient visited」と、主語と述語から文を展開します。英語の語順は日本語ほど自由度がありません。

The patient visited Hospital A with complaints of stomachache.

2.2.2. 主語の有無

日本語では文の主語を書かずに表現することが多くあります。

一方、英語では基本的に主語と述語が必要となります。日本語を英訳する際には、日本語で書かれていない主語を補って英訳しなければなりません。

例：

有害事象を FAX で報告した。

→報告したのは治験責任医師と考え、補足します。

治験責任医師は、(その) 有害事象を FAX で報告した。

The investigator reported the AE by FAX.

2.3 構文理解

「V（動詞：述語）の直前にある名詞が S（主語）」が基本です。

モニタリング報告書などで主語（S）を抜いて述語（V）から文を書く方がいらっしゃいますが、スポンサーからの指示がない限りは、英文は S + V (+ …)と書くのが基本です。

前述の通り、英語では主語と述語（動詞）と続きます。英語は動詞中心の言語と言われており、動詞を上手に選択することで、英文の質が変わってきます。どの動詞を選択するかは知識や経験によるところが大きいため、動詞の選択を意識的に心がけながら英文のライティングや読解に取り組んでみましょう。

例：

（その症状を）間質性肺炎と判断した。

×Considered the symptom as interstitial pneumonia.

○The investigator considered the symptom as interstitial pneumonia.

2.4 動詞を中心に文を組み立てる

英文は動詞を中心に組み立てていきます。動詞からどのように文を組み立てていくかを以下で説明します。

また、それぞれの動詞で、どんな構文の文を組み立てられるかが異なります（例：that 節を後に続けられる動詞か、to 不定詞を続けられる動詞か、など）。動詞の構文を理解し、習得することで、英訳を正確かつ迅速に組み立てられるようになります。一度に多くの動詞を覚えることはできませんので、まずは、治験分野で頻出する基本動詞から学習を始めましょう。

→第4章で治験分野の基本動詞を構文と共に紹介します。

2.4.1 文を組み立てる

前述の通り、動詞を中心に英文を組み立てていくわけですが、その前にまずは、日本語の主旨を見極める（抽出する）必要があります。日本語の主旨を的確に抜き出すため、日本語の理解と分解から始めます。

日本語の主旨を見極め、状況を説明するのに最適な英語の動詞を選びます。その際、それぞれの動詞が形づくれる構文を意識します。

構文が定まったところで、周辺情報を追加していきます。

[考え方]

1. 日本語の主旨を抽出する
2. 動詞を中心に、基本となる構文を考える
3. 周辺情報を肉付けしていく

次の日本語課題文を英訳してみましょう。

課題文： 2016年6月30日にIRBで(その)治験は承認された。

[解説]

1. 日本語の主旨（一番言いたいこと）を抽出する。
「治験が承認された」が文の主旨と考えます。
2. 一番ふさわしい英語の動詞を選び、基本の構文を考えます。
3. 周辺情報を肉付けしていく
「IRBで」+「治験が承認された」+「6月30日に」

[用語]

- ①6月30日：June 30, 2016
- ②（日）に：on
- ③IRB：the IRB
- ④その治験：the clinical trial
- ⑤承認する：approve

※ 英語は動詞を中心に組み立てます。

この場合の「承認する」を表す最適な動詞は **approve** で、**SVO** の構文をとる動詞です。

日本語課題文「その治験は承認された。」を直訳すると受動態になりますが、「IRB がその治験を承認した」とすれば、能動態で書けます。状況に応じて書き分けます。

③, ④ **IRB, clinical trial** は特定された名詞と考えられ、定冠詞 **the** がつきます。

ここで出てきてくる **IRB** や **clinical trial** (治験) は以前から話に出てきていたという前提で書きました。読み手がなにを指しているかわからない場合（初めて文章に登場する場合）には、冠詞を **an** とします。

※ 冠詞の大原則

読み手がなにを指しているかわからない名詞：a/an

書き手と読み手の双方がなにを指しているかわかる名詞：the

④ **clinical trial**

trial「治験」を **clinical**「臨床の」が前から修飾しています。

原則、形容詞は名詞を前から修飾します。

主語 (S) は「**IRB/the IRB**」、述語 (V) は「を承認した/**approved**」、目的語 (O) は「その治験/**the clinical trial**」となり、**SVO** の順に並べると **the IRB approved the clinical trial** となります。あとは、日付を後につければ完成です。

日付は、①, ② を組み合わせて、**on June 30, 2016** となります。

[解答例]

課題文：2016年6月30日にIRBでその治験は承認された。

解答例：The IRB approved the clinical trial on June 30, 2016.

S V O

受動態の場合

The clinical trial was approved by the IRB on June 30, 2016.

[補足] 能動態と受動態の使い分け：

受動態を使う場面はいくつかありますが、今回は「文の流れ」を説明します。
次の2つで比較してみましょう。

I 「IRBの構成メンバーがGCP要件を満たしていることを確認した。(その)IRBが2016年6月30日にその治験を承認した。」

II 「治験を治験責任医師候補に2016年4月5日に説明した。その治験は6月30日にIRBで承認された。」

英語では既知の事実を前、未知の事実を後に置く傾向があります。また、あまり重要でないこと(すでに述べたこと)から重要なこと(未知の事柄)の順に並べる傾向があります。文の流れとは、その文で述べたいこと(重要なこと)が何であるかで決まります。

Iの文では、「IRB」を中心に文章を展開しています。1文目は従属節内の主語を、2文目は主節の主語をIRBにして書くと自然な流れになります。以下にIRBを主語にした能動態の例を示しました。

一方、IIの文では、「治験」を中心に文章を展開しています。1文目で治験のことを説明しています。2文目ではthe clinical trial(治験)を主語にし、受動態で書くと自然な論理展開になります。

[解答例]

I 「IRBの構成メンバーがGCP要件を満たしていることを確認した。(その)IRBが2016年6月30日にその治験を承認した。」

I verified that the IRB consists of members who complied with the GCP requirements.
The IRB approved the clinical trial on June 30, 2016.

II 「治験を治験責任医師候補に2016年4月5日に説明した。その治験は6月30日にIRBで承認された。」

I explained a clinical trial to the investigator candidate on April 5, 2016. The clinical trial was approved by the IRB on June 30.

ちなみに、I と II を組み合わせると以下のような文の流れで表現ができます。

I explained a clinical trial to the investigator candidate on April 5, 2016.

未知

The clinical trial was approved by the IRB on June 30.

既知

I verified that the IRB consists of members who complied with the GCP requirements.

I explained a clinical trial to the investigator candidate on April 5, 2016. The clinical trial was approved by the IRB on June 30. I verified that the IRB consists of members who complied with the GCP requirements.

2.5 受動態の主語に注意

一見問題ないように見える受動態の文でも実は誤りである、といったことがあります。日本人の方が書いた英語で、散見されます。動詞の構文をきちんと理解すればなにが誤りか見えてきます。ここでしっかりとポイントを押さえておきましょう。

The subject was administered the IMP. 「治験薬を被験者に投与した。」

この英文を見て、違和感がありますでしょうか。実は、この英文は誤っています。administer の構文を考えると上の英文は成り立っていません。英文として成り立っていませんが、無理に訳すと「被験者は治験薬に投与した」といった意味でしょうか。

なにが誤っているのか以下の課題文で説明します。

課題文：治験責任医師は治験薬を被験者に投与した。

(2.2.2 に倣い、主語を補いましょう。)

[用語]

- ①治験責任医師：the investigator
- ②治験薬：the IMP (investigational medicinal product)
- ③被験者：the subject
- ④投与する：administer

[解説]

「投与する」を表す動詞 administer は、SVO の構文をとる動詞です。「投与する」という意味で give を用いることがあります。give は口語的な表現ですので、報告書などのドキュメントを書く際には administer を使いましょう。

また、「(人) に～を投与する」を表す場合, "administer ~ to 人"の構文となります。

②治験薬には様々な訳語があります。ここではIMPを取り上げました。

治験薬:

IMP*もしくは, investigational medicinal product

investigational product

study drug

IND**もしくは, investigational new drug**

* IMPなどの略語にも冠詞が必要です。IMPが1つの場合は不定冠詞a/anをつける場合, an IMPとなります。複数の場合には, IMPsと-sを語尾につけます。

** 治験薬は必ずしも新しい(new)とは限りません。INDやinvestigational new drugを用いる際には注意が必要です。認可された薬を用いた適応拡大のための治験などではINDは避けた方がよいでしょう。

主語は「治験責任医師」、述語は「に投与した」、目的語は「被験者」となり、SVOの順に並べれば完成です。

[解答例]

課題文: 治験責任医師は治験薬を被験者に投与した。

解答例: The investigator administered the IMP to the subject.

S V O

受動態では、能動態のOが主語になります(詳しくは1.2内「態」の項目を参照してください)。

The IMP was administered to the subject.

では、最初に提示した「The subject was administered the IMP.」を考えてみましょう。

能動態の文を見ると、被験者はto the subject(前置詞+冠詞+名詞)となっており、to the subjectは副詞(副詞句)になります。副詞は文の主語に慣れません。つまり、被験者to the subjectを受動態の主語にはできません。

×The subject was administered the IMP.

受動態の文が正しいかどうかを判断する簡単な方法は能動態に戻してみることです。

The IMP administered the subject.

administer「投与する」の主語がIMP「治験薬」にはなりませんので、受動態の文が誤っていることがわかります。